

令和6年度 台東区立竹町幼稚園 経営計画 評価・改善策

令和7年 2月 12日 作成

教育目標	元気いっぱい 夢いっぱい やさしい心の竹町の子
目指す幼稚園像	・幼児期を幼児らしく、のびのびと豊かに生活できる幼稚園 ・保育の質の向上を図り、個の育ちと協同的な学びの場を保障する幼稚園 ・家庭や地域と連携し、幼児・保護者・教職員が共に育つ幼稚園
目指す幼児像	・体をよく動かして遊ぶ、健康な幼児 ・人や自然を愛し、心の豊かな幼児 ・好奇心をもち、すすんで考え創意工夫をする幼児 ・友達と助け合い、楽しく遊べる幼児
目指す教師像	・保育を楽しみ、一人一人の育ちを大切に促す教師 ・互いに信頼し合い、協力し合う教師 ・向上心をもち、自己研鑽できる教師 ・保護者、地域と連携し園運営に参画する教師

A=4 B=3 C=2 D=1

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組に関する目標及び数値	評価	成果に関する目標及び数値	評価	取組例	評価・改善策	委員の方から
幼児期を幼児らしく豊かに生活できる幼稚園	・幼児期を幼児らしく伸ばし、豊かな心を育て、健康な生活を送る。	幼児が自ら体を動かそうとする意欲や態度を育て、自然に対する関心を深めたり、季節感を感じた生活を展開したりする。	計画的な校庭・体育館や公園の使用と遊び場の環境構成の工夫により、体を動かす楽しさを体験し、自ら体を動かす意欲を育てる。	・週4回以上、校庭・体育館や公園を使用し、体を動かす遊びを計画的に取り入れ、週案に記載する。 ・生活の中で、衛生・安全に配慮し、手洗い、うがい、食前の消毒など状況に応じて自分から進んで行えるようにする。	3.5	自ら戸外に出て遊ぶ幼児の増加。 運動遊びに積極的に取り組み、ルールを守って遊ぶ幼児の増加。 運動能力測定の実施と数値の向上。 集団で道路を歩く経験をして、公共の場でのマナーを身に付ける。	3.5	・鬼遊び・かけっこ ・ボール遊び・なわとび ・巧技台 ・近隣の公園に計画的に遊びに行く。	・体育館の幼稚園時間がなくなりました。給食時間と13時～校庭・体育館を上手く活用できるようにしていく。 ・アルコール消毒は、効果以上に目に入るリスクが高いと小さな芽で指導があったので、無くして必要に応じて使用する。 ・近隣の公園は、天候不順で行けなかったが、それでも、行事に組み込むことで実行できるので来年度は竹町公園の利用と併せて計画する。また末広商店街やサミットにベルマークのお礼に行くとか、回数を増やすことで、無くなってこれだけはできたとしていく。 ・戸外での活動は計画したができずにいたので、教員・支援員の人数に余裕がある日を作り遊べるようにする。 ・何曜日に運動遊びをする、と決めておくと小学校とは調整が取りやすかったが、何か小学校と負担なく使い分けできるような方法があると良い。	・小学校の中休みに園児と小学生が一緒に鬼ごっこをする等、自然な関りが出来ていて良い。 ・園外へ出る際に安全確保の手が不足なら、保護者ボランティアやスクールサポーター制度を作ったと良い。
			年間を通じた計画的な栽培活動を通して、身近な自然に対する興味・関心を深めていくようにする。	・各年齢に適した花や野菜の栽培活動を積極的に行い、野菜の収穫後は家庭に持ち帰る。 ・花育活動を推進し、親子で園舎内外の花を育てる活動を年間2回以上実施する。	3	野菜や花の栽培や身近な自然の事象に関心をもち、食に対する関心や自分で育てたことへの満足感をもつ。 育てた野菜に愛着を感じ、進んで食することができるようになる。	3	・花や夏野菜の栽培 ・果樹の収穫・サツマイモ、秋・冬野菜の栽培と収穫と調理して食す。 ・春秋植えの花植	・花育活動の取り組み目標は検討していく。 ・学級で育てたものを調理して食する機会は各学期1回は実施する。 ・藍の芽が上手く出ず、今年は出来ませんでした。来年はまた苗を買ってやると良いと思います。親子での花生活動は年間1回がいいかと思います。降園時に見に行ってもらい、預かりの人はホワイトボードに書いて各自見てもらいようにする。 ・おしろい花やオジギソウなど遊びに取り入れることができよかったが、野菜はもう少し種類や育てやすいもので活動に取り入れられるとよいと感じた。年長クラスのサツマイモ収穫後冬休みに土作りができたことで来期はもう少し余裕をもって栽培活動ができると思った。来季も続けて時間がある時に準備をする。 ・もも組のピーマンは食べられる幼児が少なかったので内容を変えたらどうかというが、 <u>嫌な物を排除していくことが良いのか。</u> 美味しく食べられる調理法の提案をする等工夫してはどうか。	・花や野菜の世話を日常的に行っていて良いです。 ・自分たちで育てた物を食す経験は大切です。 ・自分たちで育てている植物への関心の高さを感じる。 ・親子で植えた花や野菜の生長を継続して見られると良い。
			教師との信頼関係を基盤に、一人一人が自己発揮しながら、意欲的に遊びに取り組む環境構成をする。	・幼児の話をよく聞き、日々の会話を楽しむ。また、思ったことや感じたことを伝える機会を大切にする。 ・絵本や物語の読み聞かせを毎日1回以上行う。 ・年間を通して、外国語や外国の生活が分かる絵本を取り上げて読むなど、親しむ機会を多くする。	3.75	幼児一人一人が、生き生きと人と関わり、教師や友達と会話を楽しむ姿が増加。外国のことや外国語に興味を持ち、話してみようという気持ちをもつ。	3.5	・日常保育の中での会話 ・絵本・紙芝居（外国の絵本等） ・話し合い活動 ・英語で遊ぼう 活動	・外国の絵本・CDは今から購入予定です… ・話し合い活動は学級の中で取り入れられました。外国語の絵本は取り入れられませんが、万国旗を描いた際に国の言葉や地球儀に興味を示した幼児と一緒に外国に少しふれた。来期に向けて手遊びなど外国籍の保護者から教えてもらい、クラスで親しむ時間を増やしていきたい。 ・えいごであそぼうの活動は、その日限りになりがちだったので、もう少し日常に取り入れたい。➡ベネッセの先生は日常保育に教材を使用して良いと言ってくれるので、英語体験をした後は、教材を使わせてもらい、継続できるようにする。	・外国籍の友達とも自然に助け合い、一緒に遊ぶ姿が見られます。 ・自分の国の話をしてくれて、良い環境です。 ・オープンスペースで、異年齢の子の遊びに入る等自然に交流する姿が良いです。
			魅力的な遊びや環境の提示をし、自発的に活動するための力を育成する。	・週案に、その週に提示した環境について必ず明記する。また、ねらいを達成するための環境構成になっているか、保育室の環境を見ながら構成	3.5	どの学年の幼児も、自発的に遊びに取り組み、豊かな遊びが行われるように興味関心を捉えた環境構成を工夫する。	4	・自発的な遊びの充実 ・季節や行事の経験を積極的に取り入れていく。	・各保育室で行う週案会が良かった。 ・1クラス20分など時間が決まっていると、話し合いたいことがまとまってよかったと思います。週案の書式も今の形式がやりやすいです。 ・行事の環境構成（七夕・お月見・餅つき）教師の業務時間内にできることを続ける。	・遊びに様々な相違工夫があり、達成感を味わうとともに、創造性が育まれていると思う。

				していく。					・週案にやることを細かく記入しておくことで、意識的に援助できたり、実践したりできる。	
個の育ひびび協同的な学びの場を保障する幼稚園	・人材育成を強化し、一人一人の園児に適切な活動を取り入れる。	人材育成を重点課題と捉え、個々が幼児理解を深め、幼児の発達や小学校教育への移行を意識した保育の実践をする。	園内研修をすすめ、3年間の幼児の発達の姿を捉える。	・講師を招聘しての園内研究会を実施し、保育の質の向上を図る。	4	教師の幼児理解が深まり、発達を踏まえた指導のねらいを明確にしていく。	4	・園内研究会 ・週や日のねらいと評価をする	・今年度は研究保育以外にも、保育の参観になる日がたくさんあり、スキルアップされたので継続する。 ・園内研でお互いの保育を見合えたのが、良い学びになり継続したい。 ・研究発表が台東区外の幼稚園にも教員は一回ずつ参加できる時間ができるが良い。⇒今年もご案内が来ていて、せめてYouTubeで見なかったがそれも行事前が多く見られなかった。各区から送られた発表の冊子を読み解いて自分の保育に取り入れていく。 ・指導計画をよく読みながら(見直しながら)週案を立てていくことで、理解が深まった。	・小学校教員と幼稚園の先生たちが、夫々の教育を知ることが大事。 ・来年は、OJTや研修会にお互いに参加し合ひしよう。
			週案の打ち合わせを通し、園全体の幼児一人一人の実態や課題、指導について毎月の実態や変容を共通理解する。	・週案の打ち合わせを実施し、そこで、各学級の実態や課題、前月指導してきたこと等を出し合い共通理解する。	4	どの教諭も、園全体の幼児の実態を把握し、指導の方針を共通理解している。	4	・週案打ち合わせ ・日常の情報交換	・職員室が相談しやすい環境なので、何気なくその日の幼児の実態を相談できています。 ・職員同士の関係がとても良く代替職員として早く園に馴染めた。 ・毎回でなくても保育室の環境を見直そうという月に1回は見合いながらやると、環境についてのアドバイスや情報交換になります。	・幼稚園と小学校の円滑な接続のかけはしについて、互いの教育を話す機会をつくりましょう。
		働き方改革の意識を持ち、効率の良い仕事の仕方と、自己啓発に努める。	一人一人が自己の課題を明確にして資質向上を目指し、保育実践に当たる。	・自己申告に自己の課題を明記し、その課題に向けて取り組みたいことを記載する。	4	個々の課題に対する、取り組み指標、成果指標が70%以上を達成する。	4	・自己申告の作成と反省・評価や、年度末の自己評価	・自己の課題はヒアリングの中で明確になっていきました。 ・自分の仕事や、課題を振り返る良い機会になっています。 ・休日を利用し保育等セミナーを受け自己啓発に努めた。 ・達成できた部分とそうでない部分があるので、3学期は改めて意識して取り組みたいです。	・
			会議の時間短縮、効率の良い分担、パソコン上での情報共有を推進する。	・会議は終わり時間を設定する。ペーパーレス化を進める ・時間外労働を一人月に45時間以内にする。	3	教諭一人一人が、健康で意欲的に仕事に取り組むように、保育の疑問や不安を解消する機会をつくっていく。	3.5	・教育計画のデータ化。省力化できる仕事の工夫。 ・自分の保育に自信をもつ	・今後も職員室が、保育の疑問や不安を話せる場であってほしいです。 ・行事前は特に遅くなってしまいがちなので、改善できるようにしていきたいです。⇒手をかけずに準備をすることが時間を短縮できます。道具類の再利用が有効です。 ・仕事が終わらずに遅くまで残る日が多かった。仕事が園によりやり方が違うため、覚えるまでは仕方がないと思うが業務効率を図りたい。⇒行事の計画を立てることに時間がかかっているようです。毎年実施のものは前年度に実施後すぐに反省し計画をたて次年度ファイルに保存しておく、実施前は調整をする程度にする。 ・制限時間がある分、時間内でできることをした。その分皆さんに負担がかかっていないか心配。⇒できる時にできることをやろう ・持ち帰りの仕事はあるので、できれば時間内に終わらせる業務内容の工夫が必要。⇒1クラス40人いた時は行事のものは保護者に作ってもらえることはお願いしました。小学校のようにスクールサポーターがいて支援してもらえると有難いです。	・モチベーションを高めることは必要です。 ・先生たちの仕事で作り物等の軽作業や制作材料の準備をするお手伝いならば、保護者も参加しやすいと思う。 ・在園児や修了児の保護者でできる人をボランティアやサポーターに募るのが良いと思う。
幼児・保護者・教職員が共に育つ幼稚園	・家庭教育を支援し、互いに信頼し合いながら、幼児にとってよい生活環境を作る。	新しい生活習慣定着と、規範意識の育成を図る。	保護者と連携をとりながら、一人一人の発達に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう指導する。睡眠や食事等健康的な生活習慣を、意識して動けるようにする。	・毎日の生活の中での指導を積み重ね、学級便りや、懇談会の際に幼児が身に付けられるように具体的な例をあげて家庭で協力して行ってもらった内容をしっかりと伝える。	4	自分の持ち物の始末、うがい・手洗い、着替え、昼食の準備片付け、遊具の片付け等が自発的にできる。	3.5	・学級通信による指導の実情伝達と家庭への啓発。保護者会での指導の効果の報告。	・2学期終わりの年長の学級懇談会はとても良かったです。園の様子を伝えるだけでなく、保護者同士の情報交換の場も必要だと感じました。足育について幼児保護者共に伝えられていません。⇒隔年等、三年間の中で1回は家庭教育学級で取り上げてもらうようお願いしてみる。 ・保護者への発信は写真が効果的と感じる。懇談会は定期的にあると良い伝え方の工夫も大きい。	・保護者同士が話をする機会があるのは良いと思います。
			日常のあいさつや、規範意識にかかわる指導を日常的に行い、幼児が自分で考えて行動できるようにする。	・あいさつ、返事、してよいことやいけないことについて、年齢に応じた指導を、幼児の心に響くかたちで、日常的に行う。	4	気持ちのよいあいさつ・返事を自発的または、相手の挨拶を受け止めて行うことができる。	3.75	・視聴覚教材の利用(絵本や紙芝居)・教師の語りかけと気持ちのよい挨拶の実施。	・年長は2学期になって朝の挨拶を自分からすようになりました。 ・靴箱から元よく挨拶をしてくれています。外国籍の子供たちも自発的に行ってくれました。 ・挨拶を自発的にできる幼児は個人差が大きい。⇒3歳という年齢の特性があり、素直にできるようになるまで時間がかかります。	

									無理強いせず、できたタイミングでたくさん褒めましょう。	
		幼児教育への保護者の理解を深め、共に育てていくという意識を高める。	保護者が幼児の成長や幼稚園の活動の理解を深める機会の充実のための工夫を図る。	保護者に参加や参観の機会やお便り等で知らせる機会を増やし、保育のねらいや担任が構成する環境の意味や幼児にける言葉かけの配慮等の発信をして、保育の意味や親子の関わり方を伝えていく。	4	園評価で80%以上の保護者が評価。	3.75	<ul style="list-style-type: none"> 学級日より 園日より ホームページのブログ 掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ブログの更新は月によりあげられませんでした。新システムになってみんなでまめにあげられるといいです。<u>7年度からは大正幼稚園でやっていたような、一日1枚だけA4の写真をファイルに綴じる作業ができるかもしれないと思いました。預かりの保護者には、降園時に会えないのでそうして、少しでも園の様子をが伝える工夫をしましょう。</u> 帰りの際に少しでも保育室に入ってもらう機会を設けたので、保護者も喜んでくれました。3学期は何回かまた実施しようと思っ ていますが、<u>写真をたくさん撮って貼るのも良いと思います。</u> 園での様子などでは実物を見せられる物は見せたり、絵本も現物を見せたり、時間があれば外国籍の保護者の方への掲示も作ったりした。面談を1学期は2回、2学期は1回、二日に分けての参観日、懇談会ではPPでの園での様子を伝えることができた。また懇談会不参加の保護者へも別日で見えて頂く日を設けた。掲示などを取り入れてコミュニケーションを図りたい。 ブログはもう少しUPしたい。ブログ、懇談会、学級日よりなどで月1程度は写真で発信出来たらよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新は無理をせずにできると良いです。 入園を検討する保護者に、幼稚園を知る機会になるので、ホームページで園の様子を知らせるのは大事です。
		地域の方や保護者が、幼児教育・子育てに関心もてる様、園からの発信を強化する。(配布物、ホームページ、講話)		週末にはホームページの更新をし、その週の幼児の生活や発達の姿を知らせる。	3	園評価で、幼児の発達や、幼稚園の教育内容が、80%以上理解される。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会・学級懇談会 園日より・学級日より ホームページでの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ出来ておらず、すみません。学級日より、何月に出すのか一回整理できると見通しがもてるかなと思いました。➡毎月出していた幼稚園で、月末がくると仕事を辞めたくないと先生の声がありました。決めてしまうと負担になるので、先生がこの姿を保護者に伝えたいと思ったタイミングで、全クラス共通でなくても良いので、だいたい回数で揃えたいと思います。又は、学期末と行事の前の取り組みは出すというふうにしたらどうですか。 ホームページが2学期はできませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、我が子の様子を知りたいと思うので、ペースは落とさず、内容のフォーマット化や写真を載せるなど、工夫をしてほしい。
地域・家庭との連携を大切にしたい、魅力ある幼稚園	PTAや、地域との関わりを大切にし、大の力を最大限に活用する。	出来る範囲で地域・PTA・小学校と円滑な連携をすすめ、教職員・保護者同士のつながりを広げる。	地域の方々と保護者の方々をつなぐ役割を意識し、出来る範囲で情報を伝え合い、交流できる機会作りをしていく。子育て支援のひとつとして、就労支援の預かり保育を試行し、未就園児保育・プレ保育と併せて、取り組んでいく。PTA活動の省力化、オンライン化を進め、持続可能な活動にしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 学びのキャンパスプランニング事業や、地域の施設を活用した活動、本園独自の体験活動を組み込み、幼児が豊かな体験活動ができる機会を増やしていく。 PTAとの連携を深め、子育て支援の方法を検討していく。 役員会の回数や時間短縮と活動内容の精選をする。 	4	保護者が積極的に園の教育に関心をもてるようになる。保護者のアンケートにより課題があった項目について、3学期には、数値が向上するように取り組む。	4	<ul style="list-style-type: none"> 土曜保育参観・地域散策と公園の利用 昔遊び・地域の伝統行事・お年寄りとの交流活動 小学校と合同の体験活動・パラリンピック協議の体験活動(親子でポッチャ体験)、コンサートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ポッチャに関しては、担当の打ち合わせ不足で効果的に活用することが出来ませんでした。来年度は保護者のニーズに合わせて「親子のふれあい」を大切にできるように計画します。➡親子ペアの対戦時間を作ってもらってもよかったでしょうか。2学期にさくら組がお弁当の後とかに出して遊んでいて継続してもらえて良かったです。 3学期から、ホワイトボードにて降園時の連絡を行うことを検討しています。外国の方にはその方が分かりやすいかもしれません。 同上 	
		小学校・中学校と可能な交流をすすめ、互いの教育内容を理解したり、園児・児童の交流の機会を多く作ったりする。		小学校・中学校と可能な交流活動を行い、教員同士の打ち合わせや、活動の反省を行う。	3.5	小学生や中学生と関わる機会を設け、憧れの気持ちや親しみをもち。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 可能な交流活動 	<ul style="list-style-type: none"> 急遽入った高校生との交流を、効果的に活動計画をした担任の先生方には感動しました。交流も、担任の意図が大事と痛感。➡同感です！高校生が居なければできないこともありました。子供たちにも高校生にも良い思い出になったと思います。 5年生との活動は、年度当初に担任同士時期を決めたのが良かったです。1年生との交流もできたので、担任間の連携や、幼稚園から午前保育の日などに少し学校を見に行くなどできたらよりつながるかなと思いました。 年中組も小学生などの交流ができるとよいと感じた。スポーツフェスティバル前の中学生との交流もこれからも続けてほしい。 学芸会をととても楽しそうに見ていました。見るだけでも良いので、3歳児にも交流の機会があると良い。 	